

事件の表示 平成11年(ワ)第764号, 平成12年(ワ)第5341号

## 本人調書

(この調書は, 第18回口頭弁論調書と一体となるものである。) 裁判所書記官(印)

期 日 平成15年11月27日午前10時00分

氏 名 金 惠 玉

年 齢 72歳(昭和6年3月6日生)

住 所 大韓民国全羅南道和順邑郷庁里84-7

宣誓その他の状況

裁判長は, 宣誓の趣旨を説明し, 本人が虚偽の陳述をした場合の制裁を告げ, 別紙宣誓書を読み上げさせて, その誓いをさせた。

---

### 陳 述 の 要 領

別紙反訳書のとおり

以 上

裁 判 長

それでは、金さん日本語でお分かりのときは、日本語で質疑応答して  
いただいて結構ですので、もし、分からない言葉があったら、遠慮な  
く通訳の方に援助していただくということでもよろしくお願いいたしま  
す。それでは、これからいろいろ質問しますので、質問を良く聴いて  
いただいて、落ち着いて答えてください。

原告ら代理人（西野）

甲H第43号証の1（陳述録取書）を示す

これは、私と高和弁護士のほうで、あなたの話を聞いて、文書にまとめたも  
のですね。

はい。

中身を読まれましたか。

はい、よく読みました。

特に、間違っている点がありましたか。

ありません。

それでは、全部聞いていると時間がないので、ポイントになる点だけお聞き  
をしていきます。まず、あなたが日本に行くことを誘われたのは、いつのこ  
とでしたか。

1944年の5月ごろでした。

1944年5月というと、あなたは、小学校を卒業して間もなくのころでし  
たね。

はい。勉強できなく、大和女学校を受験しましたが、不合格になって、  
再習してから、5月のとき学校におったんです。

ちょっと順番に聞いていきますからね。

はい。

再習という言葉は今使われたよね。

はい。

これは、もう一回小学校で勉強しておったと、こういうことですか。

はい、そうです。

それは何のために勉強してたんですか。

上の女学校に行きたいので、私は勉強ができなくて、1回、試験落ちて、入れなかったの、もう一回、女学校へ行こうと思って、再習しました。

そうしたら、あなたが日本に行くことを誘われたのは、だれからでしたか。

私たちの学校の校長先生が、正木俊夫、また、近藤憲兵と2人で、私たちの教室に入って、「日本に行ったら金もやる。」、「あなたたち、勉強も教えるから、行く人は手を挙げなさい。」と言ったので、私は、学校を、若くして、女学校へ行きたくてたまらなかったとき、日本の学校に行くとしたら、私が、気持ちで日本の学校へ行ってきたら、一番チョンラナムド（全羅南道）のラジュ（羅州）で偉い人になれると思って、私が一番初め手を挙げました。

正木校長と近藤憲兵から、「日本に行けばお金がもらえる。」と。

「お金もくれる。」、「学校も行かせる。」と言いました。

学校というのは、女学校のことなんですか。

女学校です。私は、国民学校卒業したから、女学校と思っております。あなたが真先に手を挙げたのは、日本の女学校に行けるからでしたね。

はい。

どうして日本の女学校に行きたかったんですか。

私たちの幼いときは、日本と韓国としても、内鮮一体という話もしたし、日本人が、一番大きい顔をして、偉い人がおるから、日本の学校へ行ってきたら、私も偉くなると思って、私が一番初め手を挙げました。

朝鮮の女学校よりも、日本の女学校のほうが偉いんだというふうに思ったんですか。

はい。

お友達は、どこの学校へ通っていたかな。

お友達は、クワンジュ（光州）の朝日女学校へ通っておりました。そうすると、日本の学校に行けると、その人たちよりも上になれるんじゃないかと、こういう考えだったのかな。

はい、そうです。小さい心で、日本に行ったら、私が一番偉い人間になると思ったんです。

それで、真先に手を挙げたわけですね。

はい。

日本に行くことについて、あなたのお父さんは、最初はどのような意見でしたか。

「行くな。」として、私に話ししました。「そこ行ったら駄目だ。」として。

強く反対をされたんですか。

はい。だのに、あとには、私が、行くと言って、そこから一。ちょっと順番に聞きますから、いいですよ。

はい。

結局、だけど認めてくれたよね。

はい。

あなたは、そのときのお父さんの気持ちを、当時、理解をできましたか。

できなかったです。

できなかったですね。

はい。

今から考えると、まず、お父さんは、どうして反対をされたんだろうか。

今は、その心、分かりました。日本では、大東亜戦争しておるのに、子供が大東亜戦争のところへ行くと思うから、お父さんは、話合いしないで、行ったら駄目だとしたこととっております。

日本が戦争しておるので、小さい子供を戦地にやるわけにはいかんと考えたということですね。

はい。

でも、結局、認めざるを得なかったのは、なぜだったと思いますか。

お父さんが、チャンラナムド（全羅南道）のラジュ（羅州）というところで、大きな商売をしておりました。専売局で出る塩や、高麗のチンセイ（人参）、また、質屋もして、配給の物は全部私の家でして、日本の人たちと仲がちょっとよかったです。だから、私が日本に行こうとしているのを、反対したら、お父さんが駄目だから、仕方なく、日本に行きなさいとして、私が日本に行きました。

お父様が扱っていた物というのは、塩と何だと言われましたか。

塩と、高麗のチンセイ（人参）、煙草、質屋、そんな商売を、全部私の家でしてたんです。

塩とかー。

（通訳人を介して）塩と高麗人参ということですよ。

ああ、高麗人参。

煙草なんか、配給物は全部私の家でー。

はい、分かりました。で、そういう関係から、なかなか反対ができなかったんだらうと、今からなら思うということですね。

はい。

それでは、その、日本に出発したのは、いつごろのことでしたか。

5月の終わりごろで、日本に到着したときは6月の2日か3日か、それははっきり分からんけれども、6月ごろに日本に到着しました。

最初、日本のどこに行くかは聞いていなかったんですか。

分かりません。

あなたのお話だと、麗水というところまで汽車で行って、下関まで今度は船に乗り換えて、それから、更に汽車で名古屋まで来たということでしたね。

はい、名古屋まで来ました。

そのとき、あなたと一緒に来た子供さんは何名ぐらいでしたか。

一番初め、モッポ（木浦），ラジュ（羅州），スンチャン（順天），ヨス（麗水），四箇所で100名ぐらいになったです。

何名ぐらいでしたか。

100名ぐらいです。

引率をされたのはだれでしたか。

近藤憲兵と松山，孫相玉，私たちの学校の先生でした。その2人，私たちを連れていきました。

羅州大正国民学校の先生も来てくれた。

私の友達の姉さんで，だから，私は安心して付いていきました。

最初、名古屋に着いたときには、三菱の第四菱和寮というところに入られたんですね。

はい。

甲H第2号証の①の写真を示す

これは、あなた方が、最初に三菱の第四菱和寮というところに入寮をした時の写真でしょうか。

初め到着したその写真です。

あなたが写っていますか。

あそここのところに写っていますね。

あそこと言っても分からんけれども、ちょっと今赤いやつ（ポインターで指示しながら）で聞くけれども、この子ですか。この人ですか。

.....。

こっち？ 見えないですか。

見えなくてもー。

赤いやつで示しているんですけども。

はい、赤いやつ。

この人だね。

この人です。

こっちの人かね。

はい。

裁 判 長

何かちょっと特定できますか。

原告ら代理人（西野）

憲兵というか、工場の人ですかね、左側に歩いている人がいますよね。

.....。

見えますか。

（うなづく）

左側を歩いている人。見にくいかな。

見えます。

この人から、1人、2人、4人目ですか。3人目ですか。

はい。

この人から、1人、2人、3人目。

こっちから、ええ。

いいですか。外側を歩いている人から1人、2人、3人目。

ええ。それでちょっと前は、パク（朴）さんもあります。最初のころ。

パク・ヘオク（朴海玉）さんもあそこにあります。

あと、パク・ヘオク（朴海玉）さんの顔も見れるということですか。

はい。

そのほかの方は分からないですか。

ほかの人は一。

ちょっと分からないか。

分からないです。

甲H第2号証の②の写真を示す

これは、第四菱和寮の入り口が写っているんですかね。

はい、入り口です。

真ん中で、左手を上げて、何か説明をしている人、この人はどういう人ですか。

私たちの舎監の山添三平の、お父さんです。

舎監の山添三平さんですね。

はい。

お父さんというのは、「お父さん」という呼び名で呼んでおったということですね。

はい。呼んで、その人は、ほんとに私たちによくしてくれた、お父さんです。

その山添さんの右側の女性はだれですか。

それは、ラジュ（羅州）で、私たちを連れてきた、スン・ショウボク（孫相玉）先生です。

羅州大正国民学校の先生の孫先生一。

私たちを連れてきた、一緒に来た先生です。

日本名松山先生ですね。

はい、松山先生です。

それから、ここの中であなたが分かる女の子いますか。

はい。この人が、私たちの小隊長です、この人。この人は私たちの小



隊長だったが、この人は、東海地震で死んだ人。山本貞禮という人です。

右側の列から少しはみ出たところに、1人だけ写っている少女が山本貞禮さん。

山本貞禮。

羅州出身で、羅州の小隊長の役をやっていた人？

はい。

地震で亡くなった人だということですね。

はい、そうです。

あなた方は、その寮に入られて、すぐ工場に出ることになりましたか。

いいえ、一番初め来て、護国神社、靖国神社一。

靖国神社には行かんでしょう。

はい。靖国神社一。

靖国神社には行っとらんでしょう。

東山動物園も行ったし、名古屋城も行ったし。

靖国神社には行ってないね。護国神社だな。

護国神社と靖国神社も行きました。

あるの、名古屋に。

はい、靖国神社。護国神社は、兵隊さんが死んでいらっしやる、あの護国神社。靖国神社、私たち小さいときの覚えです。

熱田神宮の間違いだな、靖国神社じゃなくて。

ああ、靖国神社じゃなく、熱田神宮。

そうだな。

はい。

甲H第4号証の2を示す

この写真は、あなた方が名古屋城を見学したときの写真ですか。

はい。

あなたが写っていますか。

はい。私は、こっちから3番目の人が私です。

前の列の右から3人目の方。

はい、3番です。そして、3、4、5、6が、こっち来ているヤン・クンドク（梁錦徳）さんです。

ヤン・クンドク（梁錦徳）さんも、前の列の右から6番目の人。

はい。それで、これは、チン・ジンジョン（陳辰貞）さんもここに  
あります。

チン（陳）さんが、前の列の右から7番目の人ですね。

はい。それで、左から立っておる人の4番目はイ（李）さんです。

後ろの列の左から4人目はイ（李）さんだと。

はい。そして、ここに立っておる人が、私たちの小隊長なのに、死  
んだ山本貞禮さんです。

後ろの列の一番左が山本貞禮さんだということですね。

はい。こっちから、1、2、3、4、5、6、7、8、9が金田武子  
として、この人もあの東海地震で死んだ人です。

そうすると、ここに写っているのは、羅州出身の人たちが写っているんです  
ね。

はい、羅州出身の人です。

先ほどの、寮から工場までは、歩いてどのくらい掛かりましたか。

歩いて、30分ぐらい歩きました。

それは、毎日歩いて通われたんだね。

はい、歩いて通っております。

どんなふうに通われたかな。

4列になって、歌を歌って、30分たったら、工場に着きます。

4列縦隊というということかな。

はい。軍隊式で、1小隊、2小隊として扱われました。

そうすると、もう4列縦隊で、これも、かなり整然と行進をするという感じですか。

はい。「われら乙女の挺身隊」とか、また、「日の丸鉢巻き締めなおし」、そんな歌も歌いながら、工場まで行きました。

それでは、工場での作業の時間なんですけど、何時から何時ぐらいまでありましたか。

8時ごろから晩の5時ぐらいと思います。

あなたは、工場でどのような作業をされましたか。

飛行機の部品に、国防色の色を塗っていました。  
ペンキを塗るの。

はい。

その作業は、ペンキを塗るのは筆で塗るんですか。

はい。それで塗ったんです。

一日じゅう、立っての仕事でしたか。

立ってして。座ったら、私たち、しかられて、殴られたりするから、座ることもできないで、立って仕事しました。

手袋なんかがありましたか。

何にもないでした。

マスクをしましたか。

マスクもなく、何にもないで、私が、御飯も少しやって、働いて、私が、ペンキのにおいがあるって、肺結核になって、こんなに、今は健康になっておっても、私が、ほんとにつらい、その、あれを何と話しするか知らないです。

順番に聞いていきますからね。ゆっくり話しましょうね。換気扇、すなわち

空気を入れ換える施設がありましたか。

ないです。何にもなかったんです。

あなたは、作業中に気持ち悪くなったことがあったと言いましたね。

はい。小さいやつが、一生懸命に勉強したら、学校へ行かせるという約束と思って、その話だけ聞いて、一生懸命して、御飯を、少し食べて、仕事は一生懸命するから、そこで倒れて、私が目を開けて見たら、私たちの四菱和寮でした。

何回ぐらいありましたか。

2回ぐらいありました。

そうすると、ペンキのにおいで倒れちゃって、意識がなくなって、寮で気が付いたことが2回あると、こういうことですね。

はい。

作業中に、何か、監督の人からきつく注意をされたりすることがあったんですか。

はい。私たちが、少し仕事を、一生懸命しても、一生懸命しないとして、「朝鮮人だからこうなんだ。」、「半島人」、「朝鮮人」という話が、一番聞きたくなかったんです、私は。

少し何かあるたびに、「朝鮮人だからこうなんだ。」と、「半島人だから」ということで、常に、差別的なことを言われたということですかね。

はい。

どんなときに、そういうことを言われるのですか。

トイレでも、ちょっと行って、遅かったら、しかられるし、また、する仕事が、手が速くなかったら、「手が速くない」として、しかって、「あなた、仕事を速くしなさい。」と言った、その話はいいけれども、「あれ朝鮮人」、「半島人だからあんなんだ。」とする、その話が、私、死にたくなった・・・心もありました、その話聞いて。

「作業が遅い」とか、「トイレの時間が長い」ということで怒られるのはいいけれども、そのたびに、「朝鮮人」、「半島人だからだ」と言われるのが嫌だったと、こういうことですね。

はい。私たちに教えるものは、「内鮮一体」と教えてやったのに、どうして「半島人」、「朝鮮人だからそうなんだ」という話が一番聞きたくなかったんです。

では、食事の話を聞いていきますが、食事は十分に取れましたか。

いいえ。私が一番小さくて、年も小さかったけれども、私の腹が一杯にもならないときに、私よりも年が大きい人は、ほんとに腹がすいたと思っております。

もっとあなたより大きな人も来てたんだけど、その人たちは、もっとおなかがすいたろうと思うということですね。

はい。私でもおなかがへったのに。

まず、御飯ですけれども、どんな御飯でしたか。

御飯が、ジャガイモ入れて、豆としたら、豆の油なんか全部出して、その上のコッテギ（通訳人を介して）豆のかすですね、かすだけを交ぜた御飯です。（通訳人を介さず）それで、交ぜた御飯でした。そして、それでも一杯やったらいいけれども、こんなお盆に、こんなにするとき、こんなにしたら、中がちょっと入ってしまって、おなかがほんとい。

ちょっと順番に聞きますよ。まず、お茶碗に、御飯が入っているんだけど、豆かすだとか、あと、ほかに何か交ざっていましたか。

豆、ジャガイモ。

ああ、ジャガイモ。

ジャガイモ、こんなふうに入ったら、御飯がこんなになっております。少し。それ、ジャガイモがこんなものが、大きいものが入っていた。

それで、お茶碗に山盛り御飯がもらえたことはないですね。

はい、そんなことはないです。私が、あの天に宣誓します。私ほうそしたら、今でも私、死なれるようなあれです。

ゆっくりしゃべろうね。

はい。

お茶碗の、山盛り入ってなくて、しゃもじで、すりきりでもなくて、更にごう削られちゃう感じのー。

ええ。そしたら、ジャガイモが入っているから、御飯がこのぐらいになって、ジャガイモ一つでもあるから、おなかがすかないと駄目です。お代わりはできましたか。お代わりって分かるかな。

はい。

御飯が少ないから、「もう一杯下さい。」って言えましたか。

はい。おなかがへるから、「御飯、もっと下さい。」と言うと、しかられて、御飯のちょうだいという話はできないで、水は、おふろで飲んでおるから、その豆のかすは、この腹で、ぶくぶくぶくして、下痢して、便所ばかり、トイレばかり通ったときもありました。

今のお話は、おなかがすくから、水を飲むと。

はい。

ところが、豆かすとかなんか食べているから、下痢になっちゃうということを行っているわけですね。

はい、そうです。

おかずはどんなものがありましたか。

梅干し、たくあん、味噌汁でした。

いつもおなかがすいていたですね。

はい。

結局、最初のお話では、学校に行かせてあげるということだったですね。

はい。

学校に行けましたか。

学校というものは、話だけ聞いて、どこにあるかも分かりません。何か教えてもらったことはあるんですか。

はい。それは、歌、軍歌の歌。

軍歌。

はい。

どんな歌でしたか。

♪てんのーへいかの たーめならばーあー なんてーいのちがおーし  
ーいかるー かあさん あうひはー らいねんのしがーつー やすく  
にーじーんじゃのー はなのーしたー♪

こんな歌を教えて、私は、それ意味も分からんで、その歌がよいかと思ひ、ばっかり歌いました。

ほかにもたくさんあるんですけども、そういった日本の歌を教えてもらったということですね。

はい。歌、軍歌の歌、鉢巻き締めなおし、そんな歌なんか、歌ばかり習いました。

あと、その歌のほかには、どんなことを教えてもらいましたか。

歌のほかには、私たち、仕事して、よく熱心に仕事しなさいと言ったり、そんなもの、礼、最敬礼したら、こんなして、こーんなに礼しなさいと、そんなもの教えられました。

その、礼儀作法というかね。

はい、それ。

神社への参拝の仕方とかー。

はい、参拝も。だれでも、「日本は良心の国、清い国、世界第一の日本の国」として、私たち教えられたのに、今、考えたら、全部うそで

した。

では、最初は、お金がもらえるという話でしたよね。

はい。

もらえましたか。

お金一銭ももらわないで、私の家から30円持ってきたものも、使うところがなくて、使えられなかったんです。

使うところもなかったわけですね。

外も出られないし、どこでお金使えますか。

外出ができなかったんですね。

はい。

その、自分たちが勝手に自由に外へ出ることができなかった。

それ見付かったら、私たちしかられます。

では、手紙が書けましたか。

はい。書けたけども、「おなかがすく」という話は、書いたらしかられて、手を上げて、正座して、座っておらないと駄目です。

ちょっと待ってね。まず、手紙は書けたと。

はい。

だけど、書くと、こう全部見られるのかな。

全部見て、送るものは送って、送られないものは、自分たちが隠してしまいます。

具体的に、あなたが書いた手紙で、怒られたことがあるんですか。

はい。

どんな内容を書きましたか。

「おなかへったから、お父さん、何かをたくさんちょっと送ってください。」といったお手紙をしてから、しかられました。

「何か送ってください。」という手紙を書いたら、しかられたということ



すね。

はい。

そうすると、なかなか自分の思うようには書けないわけですね。

はい。書けないんです。これは軍隊式です。

何か、あなたが一計を案じて、手紙を書いたことがありましたね。

はい。私が、こんなにちょっと一番小さくて、これでは駄目だと思って、私が、この手を切って、「日本はきっと勝つ」として、手紙に書いて、私の家に送りました。

ちょっと待ってね。指を一。

切って一。

切って、その血で、その紙に「日本はきっと勝つ」と書いて送ったんだと。

はい。だから、それは、私の家に送ってきたです。

それでどうなりましたか。

そして、お父さんが、びっくりして寮にいらっしゃったんです。

何か血で書いたものを送れば、ちょっとびっくりしますよね。

はい。

どうかしたかと思って、お父さんが来てくれたんだ。

はい。

いつごろ来られたかは、ちょっとはつきり記憶ないかね。

それは・・・空襲のときだから、ちょっと・・・私たちが6月に来て、

8月・・・9月ごろか、分かりません。

分からなければ、分からないでいいですよ。

はい、分かりません。

お父さんは、あなた方の現状を見られて、「朝鮮へ帰ってこい。」ということをおっしゃらなかったか。

言いました。

あなたは、なぜ帰らなかったですか。

私は、日本の学校が、私の頭に、希望になって、日本の学校がいいと思って、お父さんに付いていかないで、友達たちを置いて、また、私1人で行くこともできないし、だから、私、お父さんに付いていかなかったんです。

まず、あなたは、まだその時点でも、仕事を一生懸命すれば、学校に行かせてもらえるんじゃないかと期待を持っていたわけだね。

はい、そうです。

それと、ほかのお友達を置いて、自分1人帰るのもできないと。

だったら、ほかの人、学校通っているのに、私は学校も通えなかったら、私は何になりますか。

学校に通いたいというのが一番だったんだね。

はい。

話は変わって、1944年12月7日、大きな地震がありましたね。

はい。

あなたは、それまで、そういう、地震というものを経験したことがありましたか。

経験したことないし、話も聞いたこともないです。

地震が起きた時に、あなたはどこで何をしていましたか。

私は、工場の真ん中で、あそこは、大きい門があったのに、そのところで、私は、仕事して、ほかの人たちは、あそのところで仕事したので……。

ちょっと待ってね。質問だけに答えてもらえばいいよ。順番に聞くからね。

はい。

そうすると、まず、あなたは、工場の建物の中にいたんだね。

はい。

だけど、大きな入り口の近くで作業をしていたということですか。

はい。

地震が起きた時に、だれか何か言いましたか。

はい。ぐらぐらして、この電気が、こういうふうにくらぐらしておつて、私たちびっくりしておるから、監督さんが、「地震だ。みんな出ていけ。」つとして、大声出したので、その時、私が逃げた時、ちょっと遅かったら、私、死んで、おらないのに、ちょっと早かって、その、あの建物が私のこのところに落ちたけれども、私が生きております、今。

監督さんが、「地震だ。」と。

はい。

「外へ出る。」と一。

「みんな出なさい。」一。

大きな声で、叫んでくれたんだね。

はい。

その時は、天井に付いておる電気が揺れるんですか。

はい、揺れました。

あなたが出た時に建物は一。

建物は全部ぺちゃんこに一。

あとから倒れたんですか。

はい。

何か、あなたも肩に当たったんですね。

はい。肩に当たったけれども、外に出てみると、足もけがしたり、こっちけがしたりとか、一杯おったので、私、痛いという話もできないです。

もっと大きなけがをしている人が一杯いたということですね。

はい。死んだ人もおるし。

そうですね。

はい。

外へ出てからも、まだ揺れていましたか。

揺れて、大きな三菱、私たちの道德工場の煙突がふーらふらして、その煙突が、私たちのところへ倒れたら、私たち死ぬと思って、「神様、助けてください。」「神様、助けてください。」として、お母さん、お父さんを、呼んで、泣いていました。

煙突はあなたのほうへ倒れなかったんですね。

はい。

結局、その地震で挺身隊の方も、6名亡くなられたようですね。

はい。

どこの出身の人が亡くなられましたか。

ラジュ（羅州）で2人、モッポ（木浦）で2人、クワンジュ（光州）で2人でした。全部合わせて6名ですね。

先ほど、羅州出身の人で亡くなられのが山本貞禮さんと、金田武子さんですね。

はい。

光子さんという名前になっておることもあるんだけどもー。

私は、光子さんというのはずっと分かりません。

武子だと思う？

はい。

山本貞禮さんと金田武子さんが亡くなられていると。

はい。

あと、覚えてみえる人は、だれですか。

小出先生と高橋先生が探していて、モッポ（木浦）の呉原愛子さんで

す。私が探したんです。

そうすると、呉原さんという名前を覚えているということですね。

はい。

地震のあと、その人たちの写真が、寮に飾ってあったという話をしていましたね。

はい。こんなしてあったんです。私たち、そこで全部、礼して。

6名の遺影が寮にも飾ってあったということですね。

はい。

地震の話を聞いて、お父さんがまた来てくれたんですね。

はい、また来ました。

その時も、帰れと言いませんでしたか。

その時も、言ったけども、私は、頭には、学校しか入っていないから、付いていかなかったんです。

その地震が起きたあとは、道德工場では、もう作業はできなかったんですね。

ええ、作業できなかったんです。

それから、次に、空襲の話をお聞きしていきますが、あなたは、空襲も何度も経験をされたんですね。

はい。晩寝ると思ったら、韓国のサイレンはウォーするのに、この日本のサイレンはウーン、そんなにして、あの、動物が鳴く声をしておるから、そんなサイレンも聞いても、怖いんです。それで、そのサイレン鳴ったら、全部、警戒して、警戒空襲して、防空壕に入るようにしています。

ちょっと、順番に聞いていくからね。空襲が多くなったのは、いつごろからでしたか。

地震になったあとです。

地震のあとから、空襲がすごく増えたということですね。

はい。

お父様が地震のあとにみえたときも、空襲があったのでしたね。

はい。空襲があったので、私は死んでもいいけれども、私のお父さんが、日本まで来て亡くなったら駄目だとして、お父さんのために、泣きました。

一緒に防空壕にも入ったということでしたね。

はい、入ったです。

空襲というのは、あなたの記憶では、どのくらいの数というか、頻度でありましたかね。

空襲ですか。

うん。1日に何回もあったとか、1週間に1遍しかないとかー。

私たち、おふろに、着物を脱いで入ったら、ウォーンとしたら、また着物着て、入って。1日、3回も4回もあれしたときが多かったです。毎日のように複数あったという記憶だということですね。

はい。毎日のように。

その警戒警報が鳴ると、あなた方はどうするんですか。

こちらの建物は1中隊、こちらの建物は2中隊の、その間に、こんなに穴掘って、防空壕を造ってから、警戒警報になったら、その穴の中に入ります、私たち。

寮の建物が2棟あってー。

はい。

一つは第1中隊、これは全羅南道の人が入っているよね。

はい。

それから、第2中隊というのが、忠清南道の人が入っているのですね。

はい。

その寮の建物と建物の間に防空壕が掘ってあったということですね。

はい。

両方で何名ぐらいになりますか。

1中隊, 2中隊合わせて, 約400名ぐらいおりますね。  
そうすると, 400名ぐらいの方が防空壕に入れたんですか。

だから, 建物大きいから, 穴がこーんな長いんですね。  
長いんだ。

はい。

実際に焼夷弾というのが投下されたこともあるんですか。

はい。私見たことがあります。そして, 私が, 私の布団で消したことも  
あります。

防空壕に入っているときに, その焼夷弾が当たって, 挺身隊の方が1人亡く  
なられているんですよ。

はい。それ, チュウセイナンド(忠清南道)のタイ・テジョン(大田  
圃)という私たちの友達は, 防空壕の入り口近くにいたから, それで,  
焼夷弾が落ちたから, 着物にあれして, 当たって, あの人は死んで。  
私はちょっと中におったので, 死ななんだから。

まず, その方は, 防空壕の入り口近くにいたということですか。

はい, そうです。

で, 何か, 焼夷弾の火が移って, 焼けちゃったということですか。

はい。

その亡くなられた方の, 亡くなっておられるところを見られたですか。

はい。出るとき。見たくなくても, 見ないと駄目じゃないですか。  
寮にも焼夷弾が落ちたことがありますか。

はい, 焼夷弾が, 私の記憶には, 138発が落ちて, 私の布団に水を  
かけて, それを消して, 砂を今度は掛けて, 私は布団もなく, 寝たと  
きがあります。

まず、138発落ちたと聞いているということだね。

はい。

数えたわけじゃないものね、あなたは。

はい。

なにか、火が燃えたときに、あなたが、布団を水につけて、それをかぶせる、で、更に砂を掛けて、消火をしたということもあるということですね。

はい、あります。

次に、その道徳工場が地震でつぶれてしまったあとに、あなた方は、富山の  
大門工場というところに移ったんでしたね。

はい。

いつごろのことでしたか。

私は、4月と思うのに、大門工場へ行ったときは、ごみみたいに、こんなにたくさん山みたいところ、私たちがこんなしてみたら、そこに雪があったんです。だから、大門工場で、富山県が、名古屋よりも寒いところとっております、私は。

まず、4月ごろじゃないかと思うということだね。

はい。4月ごろだったんですけれども。

富山でも、同じようなペンキ塗りの作業をしたということでよかったですか。

はい、そうです。

特に名古屋での生活と変わったところがありましたか。

でも、名古屋では、舎監の山添三平がちょっと優しくてよかったのに、その舎監はとても厳しくて、怖いし、片手が一つあって、こんなして、私たち、ひどく殴られて、しかられます。

片手がー。

片手の、軍隊行って、けがした人なんです。

片手、手首からですか。



はい。そしたらこんな片手で、舎監でした。

手首がないの。

はい。あの、こんな下から、手が上がりません。  
けがをしていたということですか。

はい。手をけがをして。  
手をつっているんですか。

はい。  
その富山の舎監の人からは、どんなことで怒られたことがあるんですか。

私たちと山口師範学校の学生と一緒に寮におりました。なのに、どうして山口師範学校の人たちには、蚊の薬なんかやって、蚊がないのに、私たちは、蚊の薬もくれないから、蚊が、これ・・・（通訳人を介して）足のほうを。（通訳人を介さず）足を何かして、今も私、あっちこっち、傷がたくさんあります。だから、私のお父さんから、30円もらったものを持って、蚊の薬買いにいったら、見付かったんです。それで、舎監にしかられたとき、「あなた、手を上げて、正座して座っておきなさい。」って、座っておって、手が痛くて、こんなになってしたら、いつか来て、私の髪をこんなにして、「真っ直ぐ座れ。」として、しかられたことがあります。

蚊の薬というのは、蚊取り線香のことですかね。

はい、蚊取り線香です。

それがもらえないので、買いにいったということですか。

はい。

で、ばれちゃったわけですね。

はい。

それで、罰として、正座させられたということですか。

はい。

で、更に、手を上げて正座をせられたということですか。

はい。

その姿勢が悪くなると、また注意をされるということですか。

髪をこんなにして、「真っ直ぐ座れ。」として、しかられました。髪を毛を引っ張られたこともあるということですか。

はい。

今、山口師範学校の学生、これは女生徒？

女性です。

一緒に寮にいたんですね。

はい。

その、山口師範学校の生徒から、何かばかにされたりしたことがありましたか。

はい、あります。自分たちの考えは、あの人たちが朝鮮から来たから、朝鮮人、半島人と思っておるから、日本人だったら、普通しないけども、朝鮮人というものは汚いと。私たちが何とか言ったら、「朝鮮人、かわいそう、なぜかといえば、空襲に、地震に、ペッシャンコ。」と言って、私たちはいじめられました。

そう、節を付けて言われるわけですか。

はい。その言葉が、富山県の大門の子供たちに、全部耳の中に入って、小さいやつたちでも、私たちが行ったら、「朝鮮人、かわいそう。」、こんなして、私たちはいじめられました。

山口師範学校の生徒さんだけじゃなくて、近くの子供さんからもね、そういう同じようなことを言われて、ばかにされたということがあったのですね。

はい。

それから、その山口師範学校の生徒さんから殴られたこともあったということでしたね。

はい、あります。それは、私が小さいから、8月15日、日本が負けたことも知らないで、山口師範学校の生徒、全部ラジオを聞いておったので、それで、涙を出しておるので・・・、私は、あの野郎は、鮮人だから、朝鮮人だから、日本が負けたのをよく思って、こんなして、グルっとして。山口師範学校の女たちが、私、小さいやつを、殴って、私、ほんと、つらかったんです。

その、敗戦のときは、終戦というか、敗戦のときの天皇のラジオー。

はい、そうです。

天皇がラジオ放送をしたものを聞いたときにー。

はい。

あなた、意味が分からなかった。

分からんでしょう。私は、特に日本が負けたか、だれが勝ったか、それは、どんなに分かりますか、私には。

にもかかわらず、その山口師範学校の生徒さんが、あなたが喜んでおると勘違いをされて、殴られたことがあると、こういうことですか。

はい。

富山では、食事は名古屋に比べてどうでしたか。

・・・大体おんなじです。

大体同じ。

うん。

やっぱりおなかがすきますよね。

はい。だから、こっちで話しするのは、ちょっと駄目だけれども、ここでは本当のままに話しなさいというから話しします。そのとき、あの裏のところへ行ったら、キュウリなんか、トマトがあったので、それを泥棒して食べたこともあります。

おなかがすいていたので、よその畑に行って、キュウリだとかを取って、食

べたこともあるということですね。

はい。

結局、やっと、45年の10月に朝鮮に帰ることができましたね。

はい、帰りました。

あなたが、プサン（釜山）からラジュ（羅州）に帰る途中で、お父さんに会えましたね。

途中で会いました。

どんな気持ちでしたか。

天に行っても、そのうれしさというものは、私、この世界に出て、一番と思っております、そのうれしさが。

世界で一番幸せな人間だと思ったくらいうれしかったということですか。

はい。

あなたが、お父さんの反対を押し切って、日本に来たことは、どんなふうに思われましたか。

お父さんの真心分かりました。それで、お父さんが、私を、母亡き子として、お母さんが9歳のとき亡くなってー。

母亡き子？

はい。母亡き子として、お父さんが、私を愛していただけに……。

その子供を日本に行かせたら、死ぬか知れないのに、どうして行くかと、お父さんが、私に、行くなと言ったのに、私は、分からなくて、行ったけれども、日本から帰ってきて、お父さんの真心分かりました。

お父さんの言うことを聞いといたらよかったね。

はい。でも、学校が、いつでもこの頭に入っているのでー。

やっぱり学校へ行きたかったんだね。

はい。

では、帰国をしてからのことをお聞きしていきますが、あなたの健康状態は

どうでしたか。

だから、日本でおったときは、死ななかつたけれども、私が日本から来てから、私は、カトリック教会の人です。それで、結婚しないで、シニョ（通訳人を介して）シスターになろうと思って、（通訳人を介さず）私、身体検査をしに行ったのに、レントゲンを、こっち写したら、肺結核になっていたんです。

シスターになろうと思って、健康診断を受けたけれども、結果、肺結核にかかっておることが分かったわけですね。

はい。

それは、帰ってからのすぐのことですか。

はい。すぐのことだから、私が、こっちでもらったものは、肺結核だけもらって、韓国に帰ってきました。

それは、日本でやっぱり食事が少なかったことと、労働をやらされたことが、原因になっておると思いますか。

はい、食べ物は少ないし、一生懸命に仕事はしたし。私、どうして、日本来るときは、健康に来たのに、帰るときは、どうして、肺結核になっているのですか。

あなたは、御結婚を1度されましたですね。

はい、しました。

戸籍は入れてないんですか。

入れません。

結局、その方とは離婚をしたんですね。

はい、離れました。

その原因は、どういうものだったですか。

あのチョナコンチュル、コンチュルと言われたために、私が離れました。（通訳人を介して）コンチュルというのは、供出ということです。

コンチュルというのは供出というんですかね。

ただ、今で考えたら慰安婦です。

まず、あなたが日本に行っていたということを、その相手の人は、知らなかったわけだね。

一番初めは知らなかったんです。

それが分かったことによって、誤解をされたということでもいいですか。

はい、そうです。そして、私が結核でも、それ分かったら、だれも私と話しする人おらないです。

結核も理由になっているんですか。

はい。結核と言ったら、話すると、それうつると。

うつるのではないかと思われたということも原因だということですか。

はい。

ちょっとコンチュルという話を聞きますけども、その、日本に行ったということと、コンチュルと言ったら、どう結びつくんですかね。

だから、日本に行ったとしたら、今では、あの、慰安婦でけれども、そのときは、チョナコンチュル、チョナとしたら女の（通訳人を介して）チョナコンチュルというのは、娘の供出という意味です。

（通訳を介さず）だから、一生懸命に働いて、勤労挺身隊として私たちは来たのに、人は、チョナコンチュル、慰安婦と思っております、私を。だから、それが一番悔しいです。それで、まだ悔しいものは、「あれは鮮人」、「朝鮮人」、「半島人」じゃ、一番この耳で聞くのが嫌いだったんです。

まず、その人と離婚をした原因というのが、その、日本に行ったということが分かったことと、結核になっておることが分かったことということですね。

はい。

その方との間に子供さんができましたね。

はい。初めは、分からなかったのに、家を出てから分かったんです。別れるときには気が付いてなかったけれども、御主人との間の子供さんを妊娠しておって、1人産んだということですね。

はい。

結果、その子を育てられなかったですよ。

3歳、4歳のときは、私のプサン（釜山）の家で育てましたが、私は、血を吐くから、その子供と、そこで4歳のときに、自分の家に行かせました。

その原因は、あなたの結核の症状が重くなって、血を吐くようになったので、育てられなくなって、元の御主人の下へ返したということですね。

はい。

結局、あなたは、結核で病院に入院したこともあるんですか。

はい、入院したこともあります。

どこの病院ですか。

プサン（釜山）の、私たちのカトリック教会でしておるメリノウ病院（通訳人を介して）カトリックのメリノウ病院というところですよ。

あなたは、そのあと、ハッスン（和順）というところにお住まいになっておられたんですね。

はい、そうです。

そのハッスン（和順）におられるときに、また1人、子供さんをもうけられましたね。

はい。

その子供さんとは、今現在一緒に生活をされておられますか。

はい、一緒に生活をしております。

その子供さんが、あなたがこの挺身隊の裁判をしていることを、最初はよく

思ってなかったですね。

ああ、そうです。

それは、なぜですか。

それ、全部、ハッスン（和順）におる人たちにも、裁判するというものを、初めは隠したんです。日本に行ったとしたら、慰安婦と思っておるから、それで、私1人で通ったのに、あと、日本に来たことが分かって、ああ、慰安婦じゃないかとして。あとは、この子供が、私とけんかばかりして、日本、日本ばかり行ってるとして、私に、悪口なんかして。そして、自分のおじさんに、羅州の金持ちが、子供を日本に行かせたやつが、このおじさんかとして、自分のおじさんにも悪口言ったんです、その。

まず、あなたが挺身隊の裁判をやっていることを息子さんが知って、それは、慰安婦ではないかというふうにやっぱり勘違いをして、いろいろ悪口を言うと。

悪口言って、自分のおじさんにも悪口言って。

おじさんにも、悪口を言ったと。

はい。私のお父さんにも、金持ちのやつが、子供を日本に行かせたやつがどこにおるかとして、おじさんにも悪口言ったんです。

その息子さん、最近は協力してくれるようになりましたよね。

はい。私、足が痛いとき、私の付添いに連れてきて、この日本におる良心的な人たちもいるし、こちらの話を聞いて、ああ、劇をするのを見て、私のお母さんは、慰安婦じゃないということを考えて、今は私によくします。慰安婦と思わないから。

この前、名古屋で挺身隊の劇をやったときにー。

はい。劇をやったとき見て。

あなた、足が悪いから、付き添ってきてくれたんだね。



はい。

それで、いろいろ分かってもらえて今は、協力をしてもらっているということですね。

ええ、私によくします。だから、私、足が痛かったことが、うれしく思って、天に、有り難うと言っております。

あなたの足が悪くなかったら、息子さんは来てないわけだ。

はい。

ところで、あなたは、自分が挺身隊員であったということを、昔は当然隠していたんですね。

はい。

結局、それは、今ずうっと述べているように、やはり慰安婦と間違えられる、コンチュル、処女を供出というのかな、と間違られるのが嫌だったからだという事でいいですね。

はい。

それで、あなたが、こういった挺身隊あるいは遺族会の運動に参加されるようになったきっかけは、どういうことでしたか。

ヤン・クンドク（梁錦徳）さんと、市場で会って、ヤン・クンドク（梁錦徳）さんに、遺族会の会長さんを紹介してもらって、そして、そこへ行ったり来たりして、名古屋も1回来てから、私の真心は変わりました。

1995年ごろのことですね。

ごろです。はい。

その、ヤン・クンドク（梁錦徳）さんに偶然会って、遺族会の会長、イ（李）会長かな。

はい。イ（李）会長です。

この裁判でも証言していただいた会長を紹介いただいて、話を聞く中で、気

持ちが変わったということだね。

はい。そして、今は民族運動をしております、韓国でも。  
あなたは、民族運動をしているんだとー。

はい。

あなたが、この運動を今いろいろされておられるのは、どういう気持ちから  
ですかね。

私が小さいときは、慰安婦を恥ずかしく思ったのに、今、恥ずかしい  
ものはないです。だれが見ても、正々堂々と話しすることができます。  
少し話変わりますけども、あなたが、地震で亡くなられた6名のうちの、日  
本名しか分かっていなかった呉原愛子さんの消息というか、本名を突き止め  
たことがありましたよね。

はい。

これは、あなたは、どうして呉原さんの消息を調べようと思ったんですか。

私が、遺族会のイ・グンジュ（李金珠）さんのところに、金曜日に行  
っておるのに、夕方のとき、小出先生と高橋先生と、済州島から電話  
がきました。私たち、済州島におるので、クワンジュ（光州）に行く  
から、オウ・キルエイ（呉吉愛）さんを探したいが、どうすれば探す  
ことができましようかとして、電話が来たので、私たちのラジュ（羅  
州）には、学校が二つしかなかったんです。だから、私たちの小さい  
ときは、モッポ（木浦）の古い学校行って、呉原愛子さんを探したら、  
捜せられると思って、私が、金曜日の午後に話聞いて、土曜日の朝に  
モッポ（木浦）に行ったときが、12時ー。

ちょっと順番に聞いていきますね。そうすると、イ（李）会長の部屋で、小  
出さん、高橋さんの電話があって、呉原さんの消息がずっと分かってない  
というお話を聞いたと。

はい。

そのときに、モッポ（木浦）の学校へ行って調べれば分かるんじゃないかとひらめいたということだね。

はい。

で、その日が金曜日で、実際は土曜日の日に、そのモッポ（木浦）の学校へあなた1人で行かれたわけだ。

行かれました。

モッポ（木浦）の学校には何時ぐらいに着いたんですか。

モッポ（木浦）駅に12時14分ぐらい到着してから、車に乗って、そのサンテイ（山亭）国民学校に行ったときが、12時の40分、50分になってしまったんです。

サンテイ（山亭）国民学校ですか。

サンテイ（山亭）国民学校です。

土曜日の12時50分ぐらいに着いたということですね。

はい。

学校の人は、学籍簿をすぐに見せてくれましたか。

いいえ、すぐに見せてくれなかったんです。本人が来なさい、本人が死んだから、私が来ました。と言ったら、遺族が来ないと駄目だと言うので、どうしてあなた、遺族を捜そうと思って来たのに、そんな話はどこにありますかと質問しました。そして、私が師範学校を卒業したから、学校の校長先生は、師範学校出身だから、「校長先生、出てこい。」と、大声出しました。でも、校長先生はおらなくて、それで、私が、だったら、キム・デジュン（金大中）のところへ行って、キム・デジュン（金大中）の秘書を連れてくるから、と言うから、学生簿を出してー。

かなり無理なことを言って、見せてもらったんだね。

はい。

捜せましたか。

そして、初め見るとなかったのので、私が大声して、話して、これを捜せなかったら、どうしようかと思って、胸がドキドキして、ほんとにそのときは・・・ネズミの穴があったら、入るような心を持っておいたけれども、でも、もう1回、よく見たら、呉原愛子さんが見付かったんです。そこの学生簿で。

甲H第43号証の5を示す

ちょっと薄いんですけども、これが、「児童氏名」というところに、「呉吉愛」（オウ・キルエイ）さん。で、これが消してあって、「呉原愛子」と書いてあるんですが、これが、その、あなたが捜しあてた呉原さんの学籍簿ですね。

はい。

これを見付けたとき、真先にだれに報告しましたか。

私たちの会長さんに、遺族のイ・グンジュ（李金珠）会長さんに電話をしましたが、私が口速いし、せっかちだから、「会長さん、捜しました。」と言ったらいいのに、「会長さん、チョチョット、チョチョット、チョチョット、チョチョット。」言うた（通訳人を介して）「見付かった、見付かった。」と叫びました。（通訳人を介さず）だから、会長さんが、「ゆっくり話さない。」と言ったので。でも、「早く、チョット、チョチョット。」言うから、また、「ゆっくりとちよっとしなさい。」と言ったので、「呉原愛子様を捜しました。」。そして、その時、弟さんも捜して、私が全部捜しました。

そうですね。この学籍簿には本籍地も載っているので一。

それ持ってそこの一。

その本籍地の役所に行って、親族の戸籍を取って、弟さんにも会うことができたんですね。

はい、そうです。

今では、そのオウ（呉）さんの弟さんは、この、いろいろの活動に、いろいろ協力をしていただいていますね。

協力をしております。

その、呉原愛子さんの名前は、オウ・キルエイ（呉吉愛）さんの名前は、名古屋にある慰霊碑にも、名前書いてもらっているんですね。

はい。

あなたは、自分の問題じゃないよね、このオウ（呉）さんを探すということはね。

私の問題じゃないけれども、日本の、良心のある先生たちが、13年もその人を探すと思って、行ったり来たりしたことを、私が初めて聞いたとき、私は、韓国の友達が死んだ人を、私が捜しないと駄目だと思って、私が捜したんです。

何のために、そういうことをするのか。

（通訳人を介して）悔しく死んだ方々のためにだと思います。（通訳人を介さず）私が捜しないと、だれが捜しますか。それで、私が死ぬ前に捜して、あの人たちのお霊に、6人を入れて……、（通訳人を介して）名前を5人、全部5人いたんですけれども、1人だけ見付かってなかったので、そのために、1人を必死に捜そうと思いました。あなたは、この裁判の原告になっているわけですが、何のために原告になっていますか。

（通訳人を介して）ないことをおっしゃる方もいらっしゃるんですが、私は、生きた証人だと思っています。私が死ぬ前に、この問題は絶対解決しなければならないという使命感を持っています。

最後に、あなた、述べたいことがありましたら、少し話をしていただけますか。

はい。今やりますか。

はい。

立ってやりますか。座ってやりますか。

座っていいです。

はい。（通訳人を介して）政治的解決や損害賠償ももちろん大切なことだと思いますが、それより、もっと大切なことは、過去の過ちを率直に認めて、被害者たちに、謝罪と許しを求める人間的な姿勢を示すことだと思っております。韓国の中には、今、何十万人の犠牲者がいらっしゃいます。その中でも、一番つらいことは、勤労挺身隊としての強制動員されたことです。（通訳人を介さず）お国のため働く、天皇陛下のため働く、天皇陛下のため生きる、天皇陛下のため命をかけるとして教えられました。そして、日本は、良心の国、清い国、世界第一の国という日本が、どうして私たちをだまして、こんな、胸にハン（叛）を入れているのか分かりません。そして、私が1回聞きたいものは……。 （通訳人を介して）裁判官に一つお聞きしたいです。裁判官にも、かわいいお子さんがいらっしゃると思います。もし裁判官のかわいいお子さんだと考えてみてください。（通訳人を介さず）これは、三菱から来た弁護士さんの先生に1回話します。弁護士先生が、私たちの子供、私たちみたいな子供が今おるとしたら、どういう考えを持っておりますか。それをちょっと考えてみてください。そして、私たちは、花といたら……。 （通訳人を介して）私は、花に例えるのならば、1度も咲かすこともできず、散ってしまった花だと思っています。過酷な強制労働と、地震、空襲からやっと解放された、幼い少女から、今は60年余り、すっかり70のおばあになりました。一生、胸に閉まっておくこともできたはずなんですけれども、日本の良心ある方々や、この訴訟を支援してくださった市民団体の皆さん、

そして、弁護士の皆さんのおかげで、大きな力と、勇気を得て、今日  
この場に立つことができました。心から深く感謝しております。有り  
難うございます。

被告会社代理人（岡島）

特にありません。

被告国指定代理人（藤谷）

特にありません。

以 上